

守山まるごと活性化プラン検討委員会 学区別会議 ニュースレター

第1回 合同学区別 会議

平成 25 年 6 月 15 日（土）午前 10 時から守山市民ホールにおいて、守山まるごと活性化プラン検討委員会の第 1 回学区別会議を開催しました。

「住みやすさ日本一」を実感できるまち守山を目指し、今後、学区ごとに分かれて、地域資源を活用した、市全体の活性化のためのプランを検討していきます。

このことから、第 1 回目は合同会議として、講演やパネルディスカッションを行い、活性化プラン策定の意義と検討の進め方について、みなさんと共有していただきました。

当日は学区別会議の委員の方を中心に約 200 名の方が参加されました。

■当日のプログラム

1 市長あいさつ

2 講演

(1) 『日本一のまち守山、素晴らしい地域資源』

京都大学名誉教授 高谷 好一 氏

(2) 『地域資源の発見と活かし方』

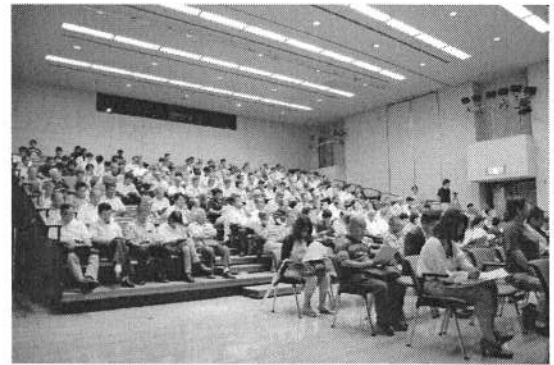
滋賀県立大学人間文化学部教授 濱崎 一志 氏

3 検討の進め方等の説明

4 パネルディスカッション 『守山まるごと活性化プラン検討の意義について』

コーディネーター： 滋賀県立大学副学長 布野 修司 氏

パネリスト： 高谷 好一 氏、濱崎 一志 氏、守山市長 宮本 和宏 ※ 内容（抜粋）



講演 1 高谷先生のおはなし



- 守山には 2 つの良い点がある。ひとつは、美しい水辺や田園風景などの自然と、そこに住む人々の生き方が素晴らしい点。もうひとつは、日本一の弥生遺跡群であり国史跡指定の下之郷遺跡と伊勢遺跡が存在することである。日本の原風景であるこれらを軸に、日本のみならず世界に向けて活性化してはどうか。
- 守山には、我々日本人の歴史がある。守山を見れば日本の極相がわかるというものを作り上げるために、みんなで守山のことを一緒に考えて行ければと考えている。

講演 2 濱崎先生のおはなし

- 地域を形づくる風土、歴史、自然、人も含めて地域資源として活用していくことになるが、文化財のように学術的な価値は高くなくても、普通の生活の中で人々の営みによって育まれてきたものを地域資源として見直し活用していくことが重要である。
- 高島市の針江という地区では、カバタを丁寧に調査することで文化的景観になった。集落としての景観は、決して派手ではないが多くの人が訪れている。地域資源を上手く活用して集落の活性化に活かすと、地域に対する愛着も変わってくる。地域にある歴史的・自然的なものの活用を学区別会議の中で考えていただきたい。



パネルディスカッション

滋賀県立大学副学長の布野先生をコーディネーターにパネルディスカッションが行われ、学區別会議を進める上でのアイデアなどについて討論されました。

会場からは、「地域の個性をどう活かすかがポイントであり、個性をつくることも大切である。」「プラン作成後も、継続的に市民が関心を持ち、議論を続けていくものであってほしい。」といった意見や、「50年100年先を見据えての計画であるので、若い年齢層の人が参画できるように、インターネットを活用した意見募集を検討してはどうか。」といった意見が出ました。



■ 高谷 氏

- 田園都市として美しい水辺や農村が十分に活かされ、その上で日本はもちろん海外にも開けたまちが理想である。日本人の原点は守山の弥生にあると確認したい。
- まるごと活性化プランをスタートとして、時間をかけて取組を継続することが必要である。大事なことは、それぞれが自分の持ち分で議論をすることである。



■ 宮本市長

- 守山は、都市、農村、漁村が共存しているという点で、日本でも希有な存在である。
- また、古くから琵琶湖や野洲川の恵みによる肥沃な土地、豊富な水、魚や食物に困らない土地であった。日本の中でも、こんなに住みやすいところは他になかったのではないか。歴史的にも、古代から近代に至るまでの様々な蓄積がある。琵琶湖、カバタや伏流水など豊富な自然資源も含めて、まずしっかりと整理し、地域でひとつずつ発掘していただきたい。
- プランを作成して終わりではない。作成後も継続して地域の皆さんが関わるような、将来に渡る基礎をつくる大切な取組であると考えている。



■ 濱崎 氏

- 旧街道沿いの景観をどう活かしていくかがひとつのテーマとなる。中山道守山宿周辺に残る古い建物はかなり危機的な状況である。一度失ってしまうと永遠に復元できないため、個人所有の建物をこのプランの中で活かすことはできないかと考えている。また、琵琶湖との関わりも深いので、水路と舟運もひとつのポイントになると考えている。
- 例えば、学區別会議に学生を参加させ、外の目線を加えることも考えられる。しかし、本プランは、地域のことを一番良く知っている地元の方の意見をどう積み上げて集約するかに尽きる。



■ 布野 氏

- 全学区が参加して、市全体の活性化を考えると、かなりユニークな取組で、日本一の仕組みになる可能性を持っている。
- 災害時には、コミュニティ（学区）の力が問われると思っている。今回、地域の中で議論をしていただくことは、地域のかたとして、ぜったいに財産になると思っている。
- 最後には、楽しい活気あるプランがまとまることを願っている。



守山まるごと活性化プラン検討委員会 学区別会議 ニュースレター

第 2 回 学区別会議 [守山学区]

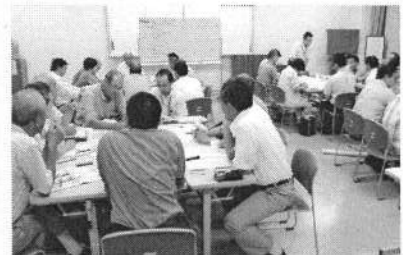
平成 25 年 8 月 1 日 (木) 午後 7 時 30 分から守山会館において、守山まるごと活性化プラン検討委員会の第 2 回学区別会議を開催しました。

最初に「守山まるごと活性化プラン」の目指すもの、検討の進め方などについて事務局から説明がありました。その後、守山学区にお住まいの住民 25 名に、滋賀県立大学の濱崎先生や学生さんも加わり、「地域の特徴、良いところ」、「地域のたからもの」について話し合い、最後に参加者同士で共有しました。

学区別会議の様子

■当日のプログラム

- ①挨拶：千代学区長より
- ②内容説明：プランの内容と検討方法、会議当日のプログラム内容
- ③テーブルに分かれて意見交換：『地域の特徴、良いところ』、
『地域のたからもの』さがし
- ④結果の発表・共有：テーブル毎で話し合った内容を発表して共有

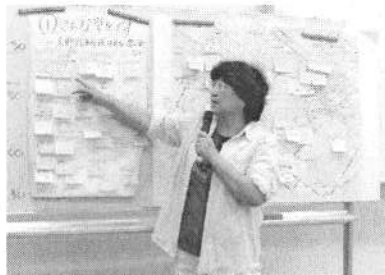


▲テーブル毎に話し合いました

テーブル毎に守山学区の『特徴、良いところ』、『たからもの』について話し合いました



▲話し合いをしている様子です。



▲発表会を通じて情報を共有化しました。

○ 4つのテーブルに分かれ、『学区の特徴、良いところ』、そして『たからもの（今まで大事にしてきたものや文化、自慢できるものなど）』を話し合いました。

○ 『地域の特徴や良いところ』で出てきた意見の中では、「駅近で生活利便性が高く、人口が増加」、「中山道に関連する街道文化や神社仏閣、遺跡などの歴史遺産が豊富」、「ホテルや水などの自然が大切にされている」などのご意見がありました。一方で、「マンションや宅地開発など、急激な人口増加による新旧住民の融合が難しい」などの課題も出されました。

○ 『たからもの』では、地域で継承されている伝統的な祭や住民が主体となって実施している地域活動、学区内に点在する神社仏閣などが多く出てきました。また、ホテルや水のきれいな川など、地域で大切にしている自然環境も守山学区の特徴となっています。

■滋賀県立大学 濱崎先生のコメント

地域の活性化は人の繋がりに始まる。歴史的遺産はもちろん大切であるが、消防団や自治会活動などの地域活動が盛んであることは、大きな宝である。外からの目線で考えた場合と、地域住民が大切に思うものが違うのが興味深い。こういったたからものをどう活かすか、今後一緒に議論していきたい。



■お問い合わせ

守山市政策調整部みらい政策課

〒524-8585 守山市吉身二丁目5番22号

TEL: 077-582-1162 e-mail: miraiseisaku@city.moriyama.lg.jp

守山まるごと活性化プラン検討委員会 学区別会議 ニュースレター

第 3 回
学区別会議
[守山学区]

平成 25 年 9 月 5 日 (木) 午後 7 時 30 分から守山会館において、守山まるごと活性化プラン検討委員会の第 3 回学区別会議を開催しました。

守山学区にお住まいの住民 20 名に、滋賀県立大学の濱崎先生や学生さんも加わり、まず、前回会議で出された意見について、大きな見落としがないかなどふりかえりをしました。次に、学区のまちづくりを進めていく上での課題や方向性について話し合い、最後に参加者同士で共有しました。

学区別会議の様子

■当日のプログラム

- ①挨拶：千代学区長より
- ②内容説明：本日進め方、第 2 回検討結果の説明
- ③テーブルに分かれて意見交換：『前回会議のふりかえり』、
『学区のまちづくりの課題と方向』
- ④結果の発表・共有：テーブル毎で話し合った内容を発表して共有



▲テーブル毎に話し合いました

テーブル毎に守山学区の『まちづくりの課題と方向』について話し合いました

- 4 つのテーブルに分かれ、前回会議で出された守山学区の「よいところ」や「学区のたからもの」の確認を行い、さらに、それらの特徴をもとに、学区のまちづくりの課題を話し合いました。
- 『学区の特徴』として、栗太郡物部村と野洲郡守山村が合併した歴史ははずせないという意見があり、『たからもの』としては、地域の神社仏閣のほか、企業と住宅が共存していることが守山学区の特長でもあるので工業団地を追加するよう意見がありました。
- 各テーブルから共通して挙げられた『まちづくりの課題』は、駅前を中心とした急激な人口増加と旧住民の高齢化に伴う「人のつながりの希薄化」「伝統行事や自治会活動の維持の難しさ」「新旧住民の関わりの難しい」などが挙げられ、また、「急激なまちの変化への対応の遅れ」や「豊富な歴史資源が活かされておらず観光の目玉がない」といった課題も挙げられました。
- 『今後のまちづくりの方向性』としては、守山に住んで良かったと言われるまちづくり、『人』を中心とした取組が守山の課題であるとの意見が出されました。



▲結果を発表してみんなで共有

■滋賀県立大学 濱崎先生のコメント

- 守山学区はたからものが多いと思っていたが、それらはたからものではなく生活するうえでの基本であるという話であった。これらをベースに学区として今後何をやるかということが大切である。
- 50 年後には日本の人口は半減すると言われている。その時の守山の状況を頭の片隅に置きながら、今何をやるかを考える必要があると思う。高齢化や人口増加に伴う自治会活動のむずかしさなど『人』を中心とした問題が出ていたが、守山学区の問題意識は非常に強いので、今後に期待しながら引き続き考えていきたい。

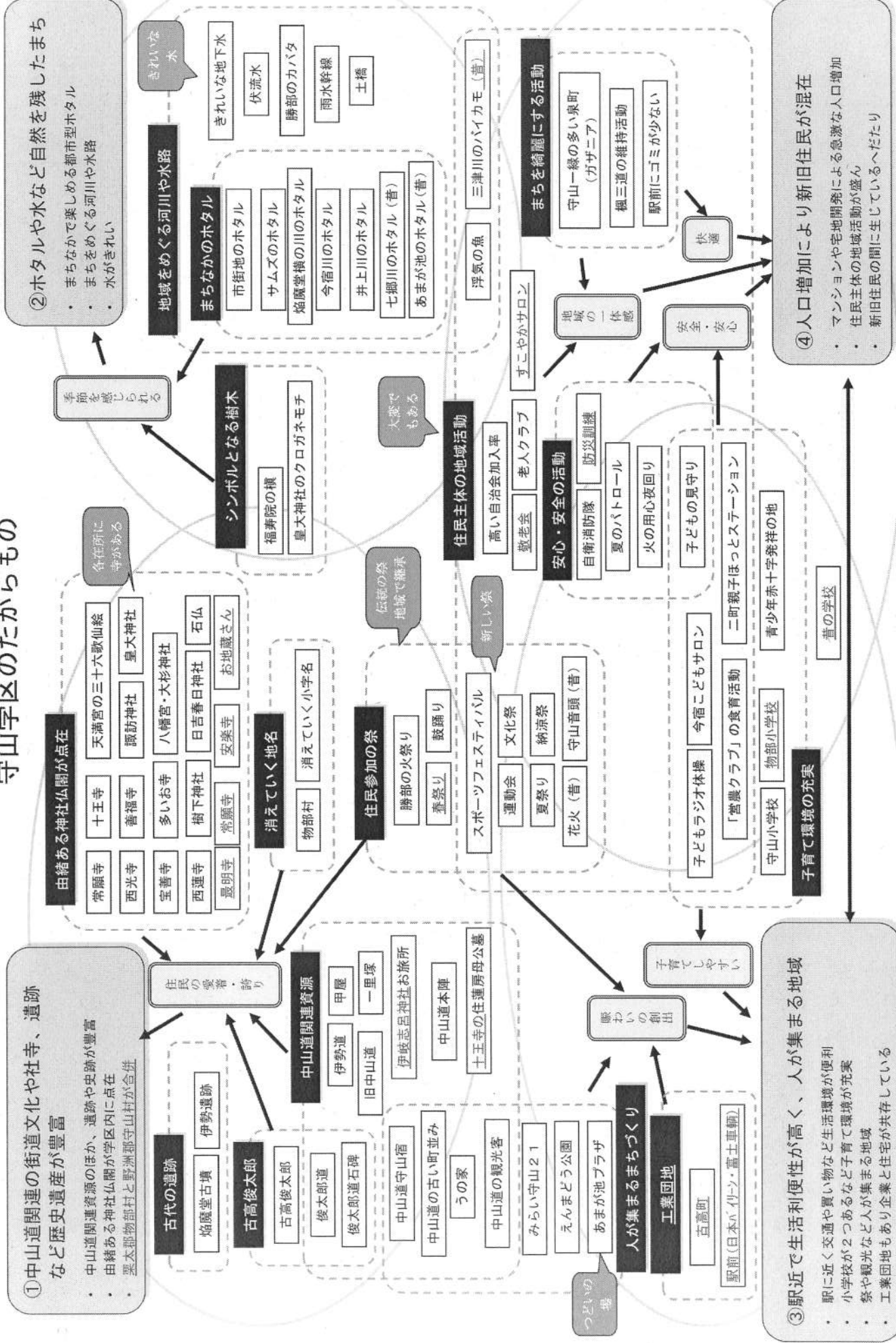
■お問い合わせ

守山市政策調整部みらい政策課

〒524-8585 守山市吉身二丁目 5 番 22 号

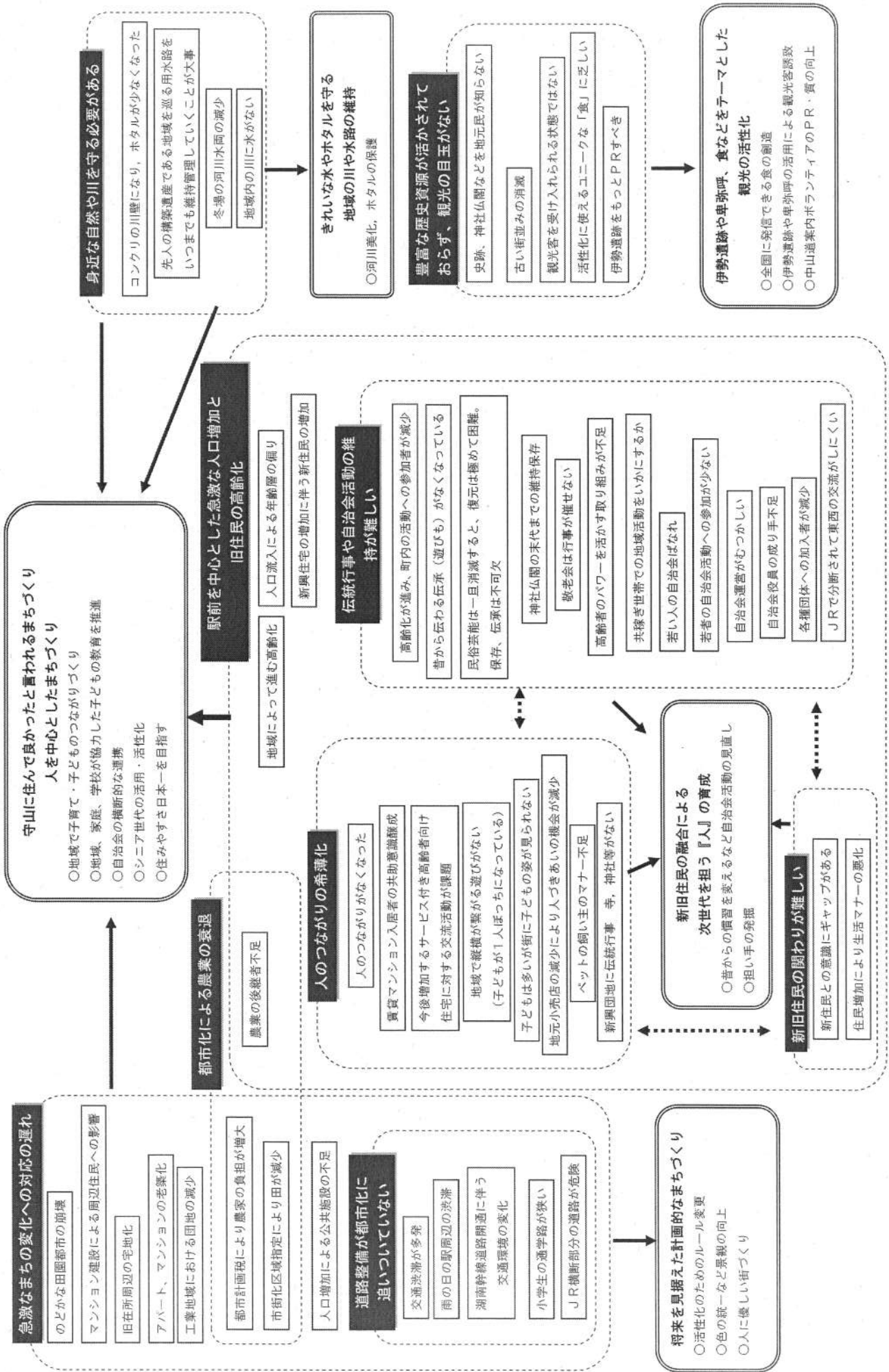
Tel : 077-582-1162 e-mail : miraiseisaku@city.moriyama.lg.jp

守山学区のたからもの



(注) 第2回のワークショップ会議で記入されたもののみ記載。赤字は第3回会議での追加・修正意見

守山学区の課題・活性化の方向性



(注) 第3回のワークショップ会議で記入されたもののみ記載。

守山まるごと活性化プラン検討委員会 学区別会議 ニュースレター

第 2 回 学区別会議 [吉身学区]

平成 25 年 7 月 24 日（水）午後 7 時半から吉身会館において、守山まるごと活性化プラン検討委員会の第 2 回学区別会議を開催しました。

最初に「守山まるごと活性化プラン」の目指すもの、検討の進め方などについて事務局から説明がありました。その後、学区にお住まいの住民 25 名、滋賀県立大学の濱崎先生や学生さんも一緒になって、「地域の特徴、良いところ」、「地域のたからもの」について話し合いが行われ、最後に参加者同士で共有しました。

学区別会議の様子

■当日のプログラム

- ①挨拶：三宅学区長より
- ②内容説明：プランの内容と検討方法、会議当日のプログラム内容
- ③テーブルに分かれて意見交換：『地域の特徴、良いところ』、
『地域のたからもの』さがし
- ④結果の発表・共有：テーブル毎で話し合った内容を発表して共有



▲テーブル毎に話し合いました

■三宅学区長の挨拶（抜粋）

学区別会議を開催するにあたり、臨時自治会長会議を開催し、どのようにまとめていくか話し合いをした。その結果、まずは誇りに思うもの、大事にしたいものを各自治体で整理してもらうこととなった。活発なご意見をいろいろ発表してもらい、その中からまとめていきたいと思っているので、よろしく願いたい。

テーブル毎に吉身学区の『特徴、良いところ』、『たからもの』について話し合いました

- 4つのテーブルに分かれ、それぞれの『地域の特徴、良いところ』、そして『たからもの（今まで大事にしてきたものや文化、自慢できるものなど）』を話し合いました。
- 『地域の特徴や良いところ』では、JR 守山駅から近いことや商業施設や病院、公共施設が集積していることから「利便性が高い」との意見があげられ、それに伴う「新住民の増加」があげられました。しかし、「新旧住民の交流が盛ん」に行われている自治会がある一方で、「新旧住民のつながり不足」を問題としている自治会があることが浮かび上がりました。
- 『たからもの』では、吉身学区には多くの川が流れていることから『豊富な水資源、水辺やその周りに生息する動植物』にまつわるものが多く、それに関連して「ホテル」や「ハリヨ」があげられました。また、『人が行き交う中山道・守山宿、昔から受け継がれている史跡、地域に守られている寺社仏閣』があげられ、それら資源を活用した歴史ウォークが行われています。



▲話し合いをしている様子です。



■滋賀県立大学 濱崎先生のコメント

いちばん一番、川・水路に触れられたものが多かったように思う。それに伴ってホテルがあげられた。守山市の地図を見ると、川の数が非常に多く、川の形状が曲がっているところがたくさんあり、これがまちの魅力となっている。他にも、中山道や公園、遺跡があり、これらは守山のたからとして、次につなげていけたらと思っている。

■お問い合わせ

守山市政策調整部みらい政策課

〒524-8585 守山市吉身二丁目5番22号

Tel: 077-582-1162 e-mail: miraiseisaku@city.moriyama.lg.jp

守山まるごと活性化プラン検討委員会 学区別会議 ニュースレター

第 3 回 学区別会議 [吉身学区]

平成 25 年 8 月 30 日（金）午後 7 時半から吉身会館において、守山まるごと活性化プラン検討委員会の第 3 回学区別会議を開催しました。

吉身学区にお住まいの住民 24 名にお集まりいただき、まず、前回会議で出された意見について、大きな見落としがないかふりかえりをしました。次に、学区のまちづくりを進めていく上の課題や方向性について話し合い、最後に参加者同士で共有しました。

学区別会議の様子

■当日のプログラム

- ①挨拶：三宅学区長より
- ②内容説明：会議当日のプログラム内容、第 2 回検討結果の説明
- ③テーブルに分かれて意見交換：『前回会議のふりかえり』、
『学区のまちづくりの課題と方向性』
- ④結果の発表・共有：テーブル毎で話し合った内容を発表して共有



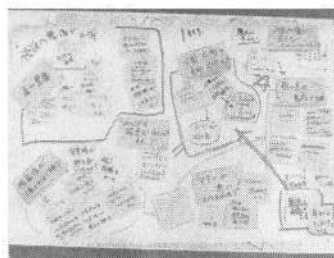
▲テーブル毎に話し合いました

テーブル毎に吉身学区の『まちづくりの課題と方向性』について話し合いました

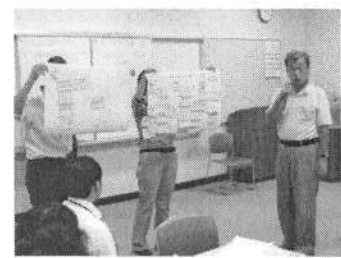
- 4つのテーブルに分かれ、前回会議で出された吉身学区の『良いところ』や『たからもの』の確認を行い、さらに、それらの特徴をもとに、『学区のまちづくりの課題』を話し合いました。
- 『たからもの』としては、豊富な水資源である「石田川」や「守山川」、「吉身川」などが抜けているという意見がありました。また、1月に火祭りが開催される「住吉神社」や5月に豊年踊りが開催される「馬部石邊神社」が抜けているという意見がありました。さらに、弥生時代の巨大環濠集落として有名な「下之郷遺跡」は外せないという意見がありました。
- 『まちづくりの課題』については、「新旧住民のつながりが弱いこと」と「道路や公園、河川等の施設を充実・整備する必要であること」、「住宅開発により自然や広場等が減少していること」などの意見が出されました。
- 『今後のまちづくりの方向性』としては、「史跡や施設の活用」や「新旧住民の交流を進めるためのきっかけづくり」、「まちの現状を活かした魅力づくり」など、今後のまちづくりのヒントになるような意見が多く出されました。



▲出された意見は記録

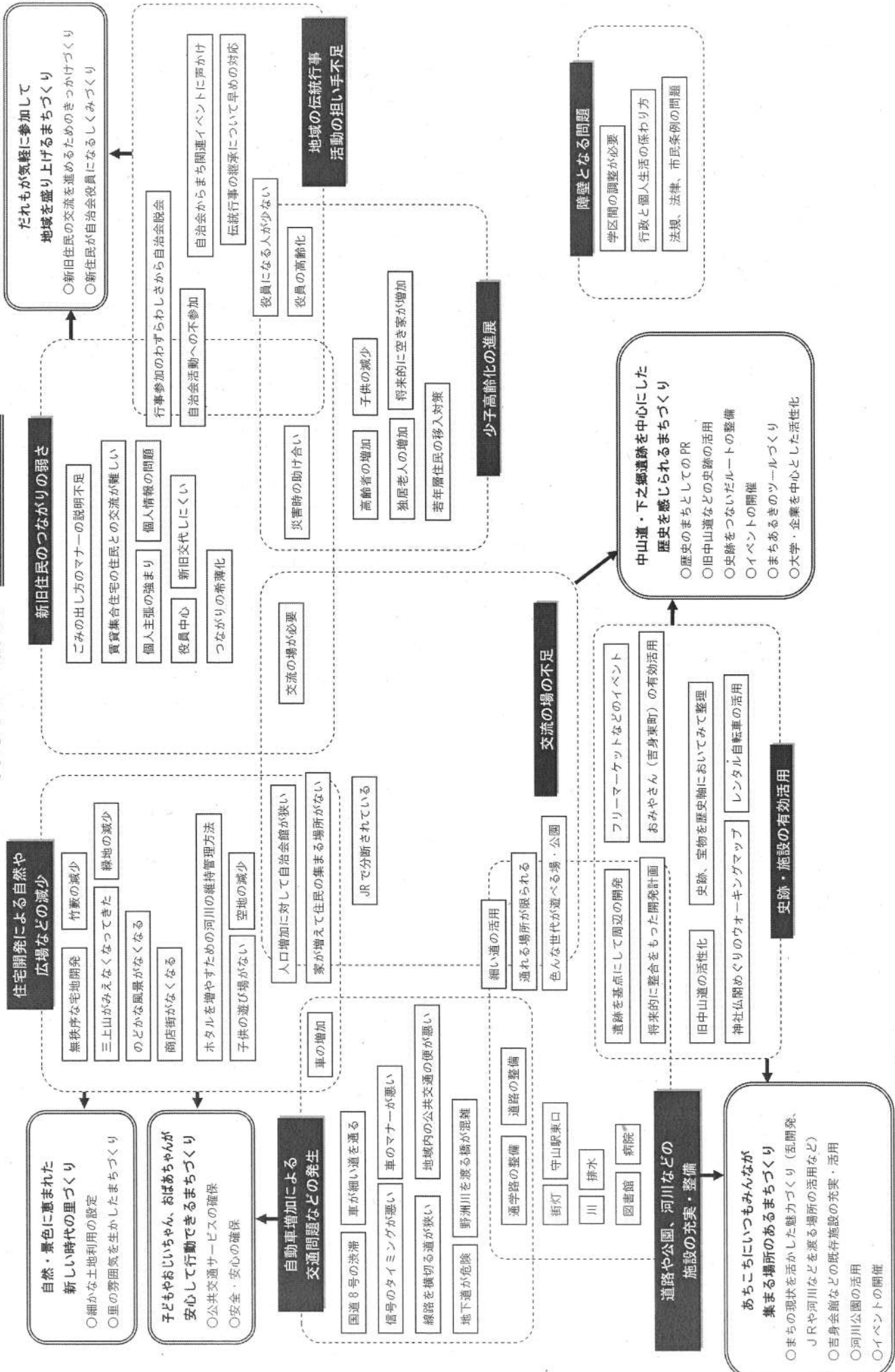


▲類似の意見をグルーピング



▲成果を発表し参加者で共有

吉身学区の課題・活性化の方向性



(注) 第3回のワーキングセッション会議で記入されたもののみ記載。

守山まるごと活性化プラン検討委員会 学区別会議 ニュースレター

第 2 回 学区別会議 [小津学区]

平成 25 年 8 月 21 日 (水) 午後 7 時 30 分から小津会館において、守山まるごと活性化プラン検討委員会の第 2 回学区別会議を開催しました。

最初に「守山まるごと活性化プラン」の目指すもの、検討の進め方などについて事務局から説明がありました。その後、小津学区にお住まいの住民 24 名で、「地域の特徴、良いところ」、「地域のたからもの」について話し合い、最後に参加者同士で共有しました。

学区別会議の様子

■当日のプログラム

- ①挨拶：三品学区長より
- ②内容説明：プランの内容と検討方法、会議当日のプログラム内容
- ③テーブルに分かれて意見交換：『地域の特徴、良いところ』、
『地域のたからもの』さがし
- ④結果の発表・共有：テーブル毎で話し合った内容を発表して共有



▲テーブル毎に話し合いました



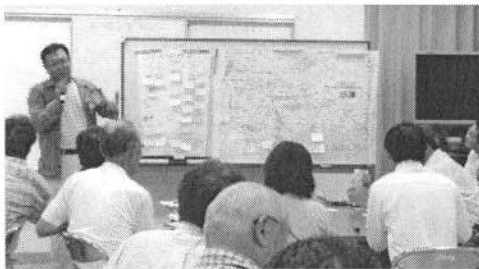
■三品学区長の挨拶 (抜粋)

歴史資源や自然資源の活用により魅力的な地域創造を図るとか、人と人との絆を強化するといった視点で、地域の掘り起こしをしていただき、小津学区が活性化する方策を考えていただければと思う。

テーブル毎に小津学区の『特徴、良いところ』、『たからもの』について話し合いました



▲話し合いをしている様子です。



▲発表会を通じて情報を共有化しました。

- 4つのテーブルに分かれ、『学区の特徴、良いところ』、そして『たからもの (今まで大事にしてきたものや文化、自慢できるものなど)』を話し合いました。
- 『地域の特徴や良いところ』で出てきた意見の中では、「ホテルや水、田園風景など自然溢れるまち」、「蓮如上人ゆかりの地でもあり、由緒ある神社仏閣などの歴史資源が豊富」、「人の絆が強く、自治会活動やお祭りなどの地域行事が盛ん」などのご意見がありました。
- 『たからもの』では、学区内に点在する由緒ある神社仏閣や地域を物語る歴史、ホテルや花、水などの自然資源が多く出てきました。また、地域住民の集う場所や盛んな地域活動や行事など住民の強い絆や連帯感も小津学区の特徴となっています。

■お問い合わせ

守山市政策調整部みらい政策課

〒524-8585 守山市吉身二丁目5番22号

TEL: 077-582-1162 e-mail: miraiseisaku@city.moriyama.lg.jp

守山まるごと活性化プラン検討委員会 学区別会議 ニュースレター

第 3 回 学区別会議 [小津学区]

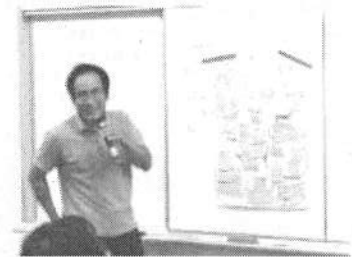
平成 25 年 9 月 9 日 (月) 午後 7 時 30 分から小津会館において、守山まるごと活性化プラン検討委員会の第 3 回学区別会議を開催しました。

小津学区にお住まいの住民 26 名とともに、まず前回会議で出された学区の特徴や宝ものに関する意見について、大きな見落としがないかどうかなどふりかえりをしました。次に、学区のまちづくりを進めていく上での課題や方向性について話し合い、最後に参加者同士で共有しました。

学区別会議の様子

■当日のプログラム

- ①挨拶：三品学区長より
- ②内容説明：会議当日のプログラム内容、第 2 回検討結果の説明
- ③テーブルに分かれて意見交換：『前回会議のふりかえり』、
『学区のまちづくりの課題と方向』
- ④結果の発表・共有：テーブル毎で話し合った内容を発表して共有



▲結果を発表してみんなで共有

テーブル毎に小津学区の『まちづくりの課題と方向』について話し合いました



▲困っていることや、こうなれば良いと思うことなどを、皆で考えました。

- 4つのテーブルに分かれ、前回会議で出された小津学区の『良いところ』や『たからもの』の確認を行い、さらに、それらの特徴をもとに、『学区のまちづくりの課題』を話し合いました。
- 『たからもの』としては、長刀祭や千灯祭といった祭を、地域の行事としてだけでなく、受け継いできた歴史・伝統としても捉え活用してはという意見がありました。また、住民が気軽に集まることができるような機会を大事に守っていききたいという意見もありました。
- 『まちづくりの課題』については、「川や琵琶湖の環境の悪化」や「少子高齢化と人口減少」、「希薄化した人間関係の中でのつながりの確保」といった意見が各テーブルから多く上げられました。
- 『今後のまちづくりの方向性』としては、「水や琵琶湖に親しむことのできる環境づくりを」、「生成りで（本来のすがたのまま）でできることから始める」、「多くの住民が楽しめるような伝統文化の受継ぎ方を考える」など、今後のまちづくりのヒントになるような意見が多く出されました。

■お問い合わせ

守山市政策調整部みらい政策課

〒524-8585 守山市吉身二丁目5番22号

Tel: 077-582-1162 e-mail: miraiseisaku@city.moriyama.lg.jp

小津学区のたからもの

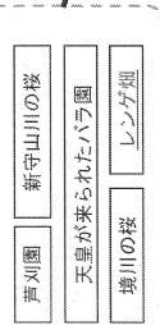
①ホタルや水、田園風景など自然溢れるまち

- ・ 身近に流れる川と豊かな水自然
- ・ 山々の眺望と美しい田園風景
- ・ 身近なホタル等のいきもの

身近な水資源



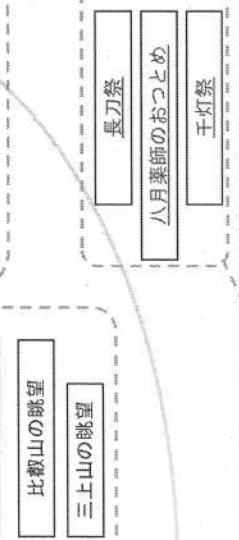
季節を感じる花



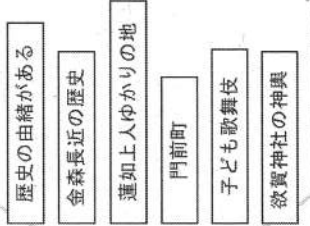
多様な生物



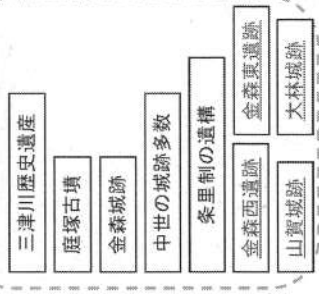
山々の眺望



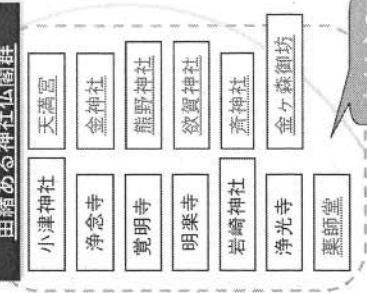
地域の歴史



歴史を語る遺跡



13ヶ寺を中心とする由緒ある神社仏閣群



守り続ける伝統文化

②過去から受け継ぐ歴史や伝統

- ・ 歴史的な街道が交わる交通の要衝
- ・ 蓮如上人ゆかりの地でもあり、歴史を刻む寺社など歴史遺産が多い

史跡を巡るルート

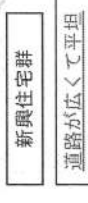
真言宗の寺院を巡るルート

便利

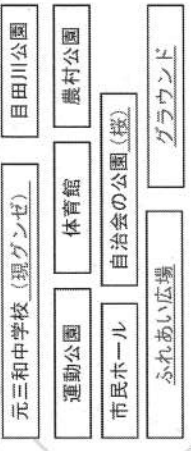
交通の要衝



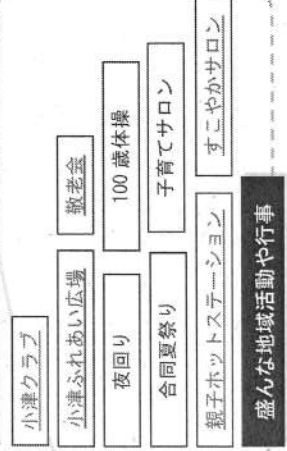
その他



地域の憩いの場所



組合も一緒に



人と人が開けやすい

人が集まる場

③絆でつながる人と人

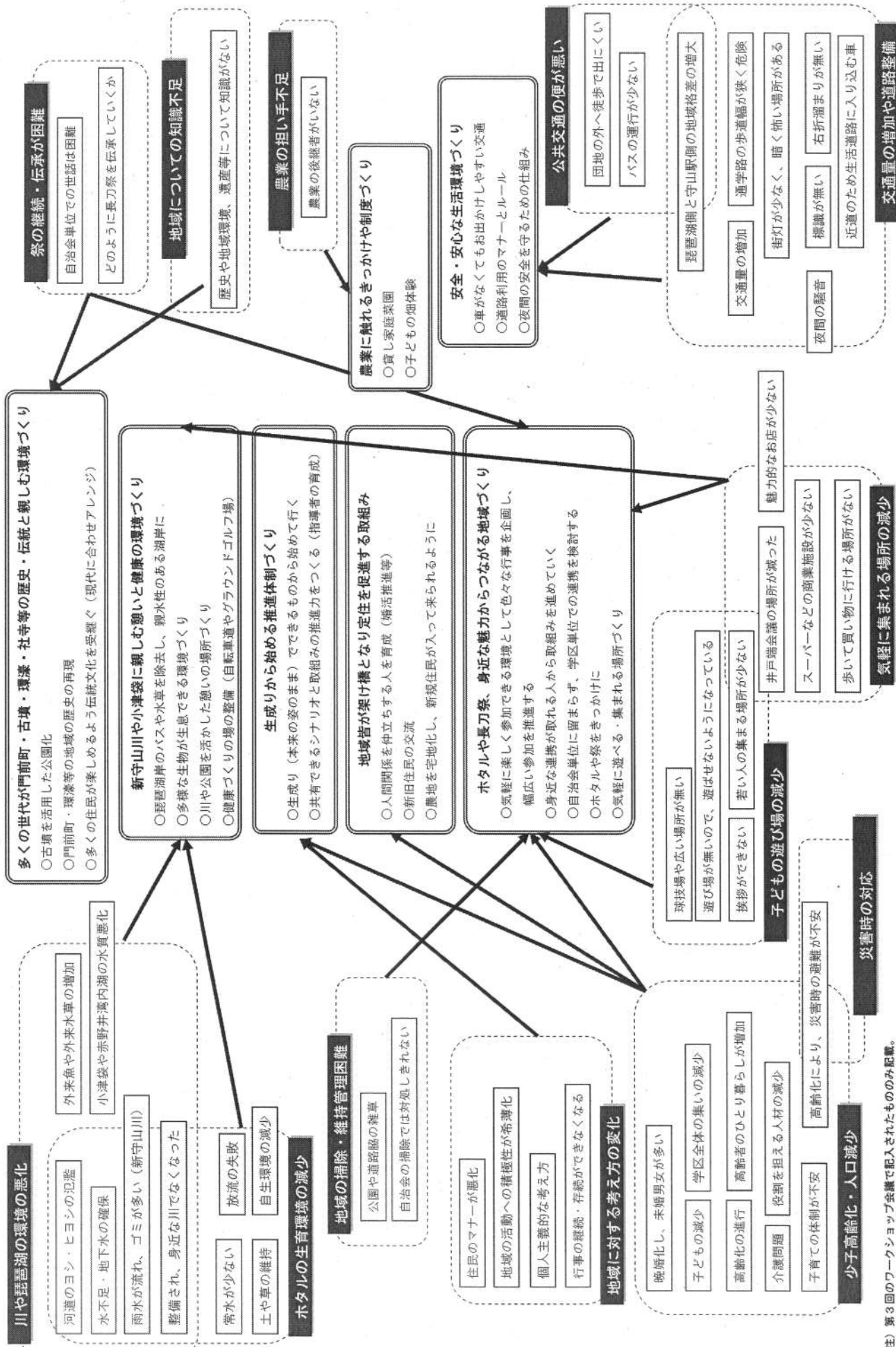
- ・ 地域の強い絆
- ・ 自治会活動やお祭りなどの行事が盛ん

④安心・安全で住みよいまち

- ・ 自然災害が少ない
- ・ 公共施設が充実し、住みやすくてのどかな住環境

(注) 第2回のワークショップ会議で記入されたもののみ記載。赤字は第3回会議での追加・修正意見

小津学区の課題・活性化の方向性



(注) 第3回のワークショップ会議で記入されたもののみ記載。

守山まるごと活性化プラン検討委員会 学区別会議 ニュースレター

第 2 回 学区別会議 [玉津学区]

平成 25 年 7 月 24 日（水）午後 8 時から玉津会館において、守山まるごと活性化プラン検討委員会の第 2 回学区別会議を開催しました。

最初に「守山まるごと活性化プラン」の目指すもの、検討の進め方などについて事務局から説明がありました。その後、玉津学区にお住まいの住民 14 名で、「地域の特徴、良いところ」、「地域のたからもの」について話し合いが行われ、最後に参加者同士で共有しました。

学区別会議の様子

■当日のプログラム

- ①挨拶：谷口学区長より
- ②内容説明：プランの内容と検討方法、会議当日のプログラム内容
- ③テーブルに分かれて意見交換：『地域の特徴、良いところ』、
『地域のたからもの』さがし
- ④結果の発表・共有：テーブル毎で話し合った内容を発表して共有



▲テーブル毎に話し合いました

■谷口学区長の挨拶（抜粋）

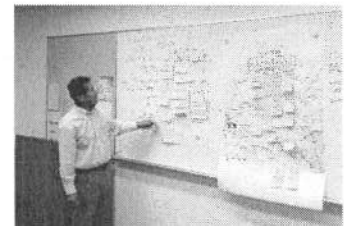
「活性化」という言葉を調べてみると、「今まで使われなかったものに刺激を与え、使われるようにすること」と説明されている。この守山をより元気にしていくため、歴史的資源など単なる「もの」だけに限らず、まちの活性化、コミュニティの活性化、観光の活性化など、360 度に視野を広げていただき、地域の資源を活用する方策を考えていただければと思う。

テーブル毎に玉津学区の『特徴、良いところ』、『たからもの』について話し合いました

- 3つのテーブルに分かれ、それぞれの『地域の特徴、良いところ』、そして『たからもの（今まで大事にしてきたものや文化、自慢できるものなど）』を話し合いました。
- 『地域の特徴や良いところ』で出てきた意見の中には、玉津学区に共通して、「人と人のつながりが強い」、「地域の伝統行事などが継承されており、それらを通じて地域の人間関係が形成されている」「地域への愛着、一体感などが感じられる」などのご意見もありました。一方で、「この地域の歴史や伝統をどのようにして、次の世代に継承していくのか」など、今後の地域のあり方についての課題も出されました。
- 『たからもの』では、湖岸付近のかつての賑わいのあった記憶、地区の神社やお寺などで継承されている祭・神輿など伝統文化に関することが多く出てきました。また、自然が豊かで四季折々の風情が感じられる環境も玉津学区の特徴となっています。



▲話し合いをしている様子です。



▲発表会を通じて情報の共有化をしました。

■お問い合わせ

守山市政策調整部みらい政策課

〒524-8585 守山市吉身二丁目5番22号

TEL: 077-582-1162 e-mail: miraiseisaku@city.moriyama.lg.jp

守山まるごと活性化プラン検討委員会 学区別会議 ニュースレター

第 3 回 学区別会議 [玉津学区]

平成 25 年 8 月 13 日 (火) 午後 7 時 30 分から玉津会館において、守山まるごと活性化プラン検討委員会の第 3 回学区別会議を開催しました。

玉津学区にお住まいの住民 13 名にお集まりいただき、まず、前回会議で出された意見について、大きな見落としがないかなどふりかえりをしました。次に、学区のまちづくりを進めていく上の課題や方向性について話し合い、最後に参加者同士で共有しました。

学区別会議の様子

■当日のプログラム

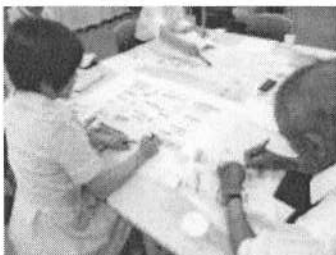
- ①挨拶：谷口学区長より
- ②内容説明：会議当日のプログラム内容、第 2 回検討結果の説明
- ③テーブルに分かれて意見交換：『前回のふりかえり』、
『学区のまちづくりの課題と方向性』
- ④結果の発表・共有：テーブル毎で話し合った内容を発表して共有



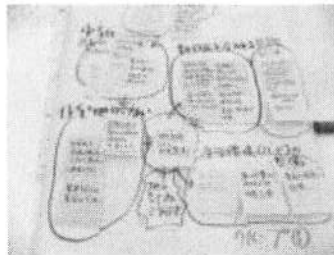
▲テーブル毎に話し合いました

テーブル毎に玉津学区の『まちづくりの課題と方向性』について話し合いました

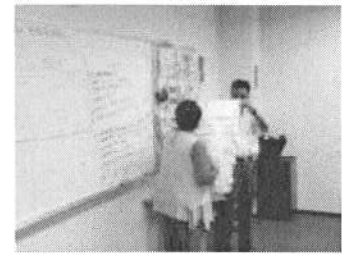
- 3つのテーブルに分かれ、前回会議で出された玉津学区の『良いところ』や『たからもの』の確認を行い、さらに、それらの特徴をもとに、『学区のまちづくりの課題』を話し合いました。
- 『たからもの』としては、地区内の神社仏閣や水資源、人が集う仕組みなどの項目で追加がありました。また、新たな項目として、「赤野井を中心とした7つの放射状道路網」がありました。
- 『まちづくりの課題』については、「地区人口の減少と高齢化が顕著であること」、「伝統文化の継承が難しくなっていること」、「人のつながりの希薄化が進行していること」、「自然環境が失われつつあること」、「交通の便が不便であること」などの意見が出されました。
- 『今後のまちづくりの方向性』としては、「人のつながりや若者の関心を高めるイベントの開催」、「地区計画に基づくまちづくり」、「若者が定着できる住環境の整備」、「漁業・農業の6次産業化」、「赤野井湾でのしじみ養殖」「学区のPRの強化」など、今後のまちづくりのヒントになるような意見が多く出されました。



▲出された意見は記録

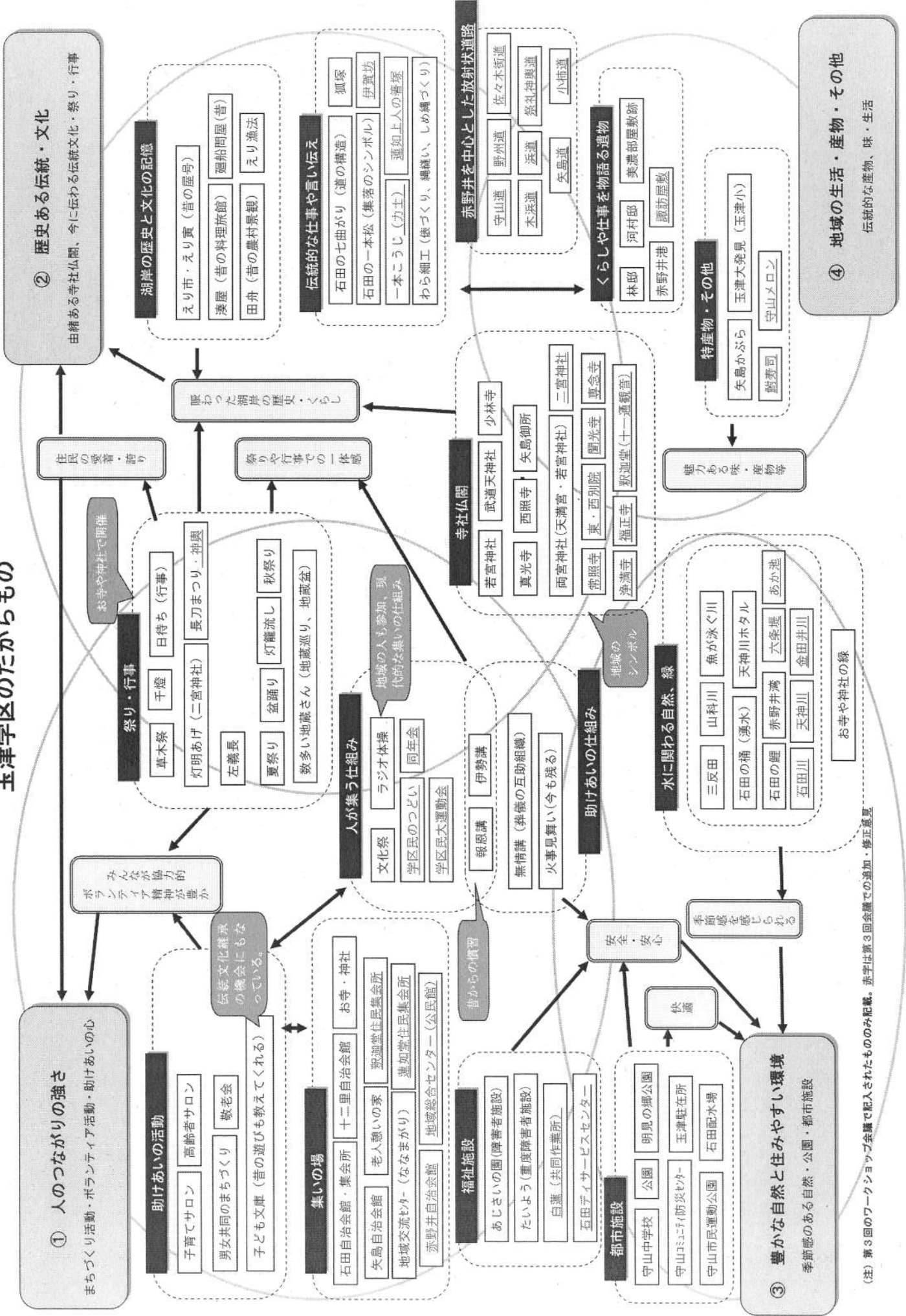


▲類似の意見をグルーピング



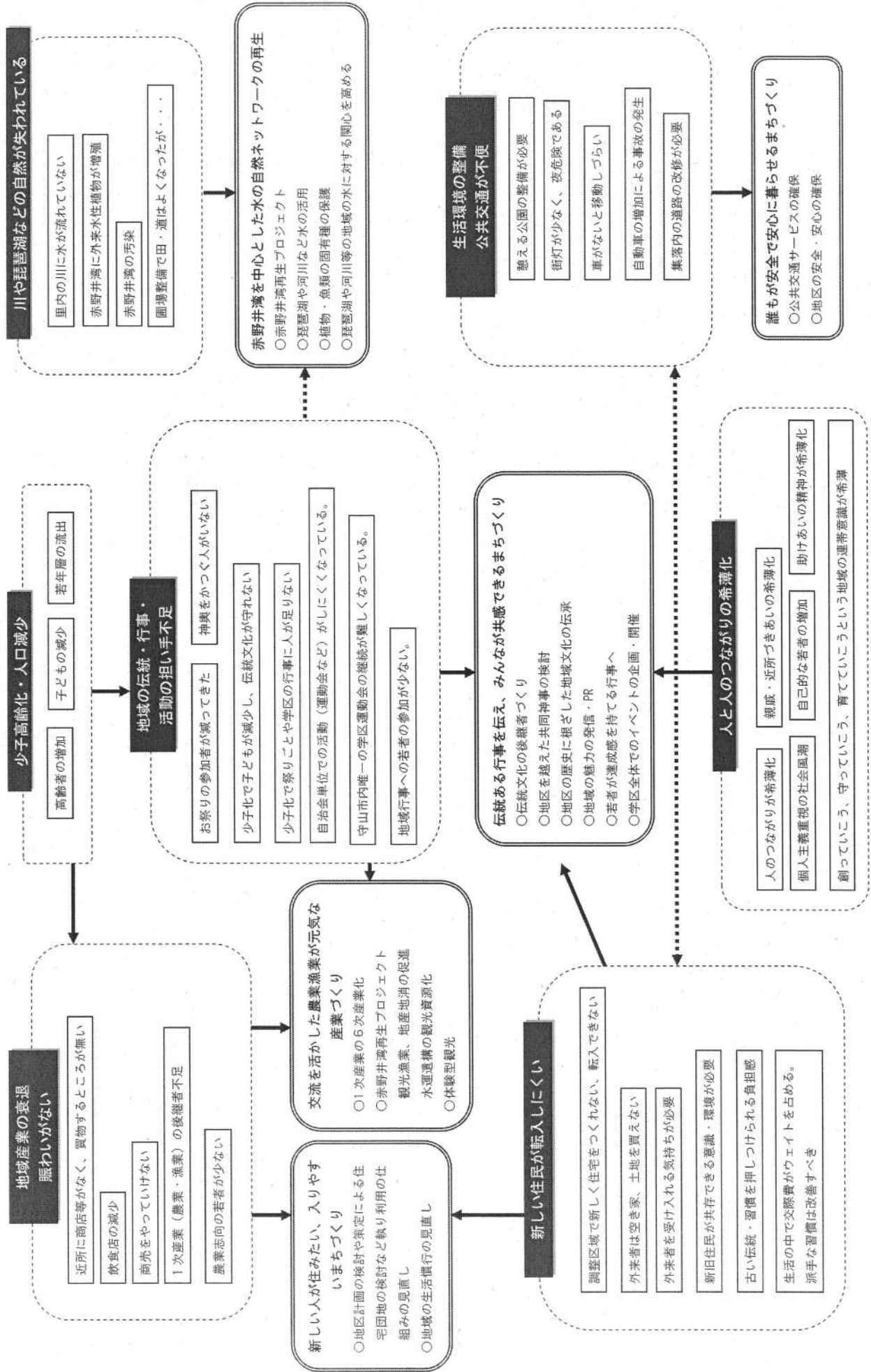
▲成果を発表し参加者で共有

玉津学区のたからもの



(注) 第3回のワークショップ会議で記入されたもののみ記載。赤字は第3回会議での追加・修正履歴

玉津学区の課題・活性化の方向性



(注) 第3回のワークショップ会議で記入されたもののみ記載。

守山まるごと活性化プラン検討委員会 学区別会議 ニュースレター

第 2 回 学区別会議 [河西学区]

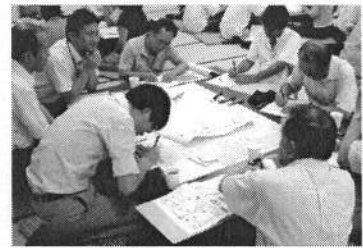
平成 25 年 7 月 25 日（木）午後 7 時 30 分から河西会館において、守山まるごと活性化プラン検討委員会の第 2 回学区別会議を開催しました。

最初に「守山まるごと活性化プラン」の目指すもの、検討の進め方などについて事務局から説明がありました。その後、河西学区にお住まいの住民 31 名に、滋賀県立大学の濱崎先生や学生さんも一緒になり、「地域の特徴、良いところ」、「地域のたからもの」について話し合いが行われ、最後に参加者同士で共有しました。

学区別会議の様子

■当日のプログラム

- ①挨拶：高野学区長より
- ②内容説明：プランの内容と検討方法、会議当日のプログラム内容
- ③テーブルに分かれて意見交換：『地域の特徴、良いところ』、
『地域のたからもの』さがし
- ④結果の発表・共有：テーブル毎で話し合った内容を発表して共有



▲テーブル毎に話し合いました

■高野学区長の挨拶（抜粋）

私自身も、「地域の宝物」は半分程度しか知らない。意外と住んでいる地域のことはわかっていないものであり、守山市全体では、もっと知らないこともあると思う。地域を知ること、守山を知ることが、「住みやすさ日本一」につながる。この会議をとおして、河西学区の素晴らしさを再確認していきたい。

テーブル毎に河西学区の『特徴、良いところ』、『たからもの』について話し合いました

- 5つのテーブルに分かれ、それぞれの『地域の特徴、良いところ』、そして『たからもの（今まで大事にしてきたものや文化、自慢できるものなど）』を話し合いました。
- 『地域の特徴や良いところ』で出てきた意見には、「地域へのつながりが強い」、「交流が活発に行われている」がありました。また、新旧住民が混在している地域では、運動会等をつうじて交流が図られているそうです。
- 『たからもの』では、各地で野洲川の伏流水や湧水といった『水』にまつわる慣習や文化に関するものが多く出てきました。また、市の花にも指定されている「妙蓮」や、伏流水・湧水を活かした「川戸」といったユニークな『たからもの』、「笠原生姜」や「わさび」といった特徴的な農産品が出てきました。

■滋賀県立大学 濱崎先生のコメント

川戸の関連事例として、高島市・針江の「かばた（川端）」を紹介させていただく。針江では、有料で観光客に「かばた」を紹介する取り組みを行っており、収益を「かばた」の補修費等に充てている。「かばた」の観光資源化については賛否両論があるが、活性化の観点から良い点・悪い点をいかにうまく回していくかがポイントになると思う。



■お問い合わせ

守山市政策調整部みらい政策課

〒524-8585 守山市吉身二丁目5番22号

TEL: 077-582-1162 e-mail: miraiseisaku@city.moriyama.lg.jp

守山まるごと活性化プラン検討委員会 学区別会議 ニュースレター

第 3 回 学区別会議 [河西学区]

平成 25 年 8 月 28 日（水）午後 7 時から河西会館において、守山まるごと活性化プラン検討委員会の第 3 回学区別会議を開催しました。

河西学区にお住まいの住民 25 名に、滋賀県立大学の濱崎先生や学生さんも加わり、まず、前回会議で出された意見について、大きな見落としがないかなどふりかえりをしました。次に、学区のまちづくりを進めていく上での課題や方向性について話し合い、最後に参加者同士で共有しました。

学区別会議の様子

■当日のプログラム

- ①挨拶：高野学区長より
- ②内容説明：会議当日のプログラム内容、第 2 回検討結果の説明
- ③テーブルに分かれて意見交換：『前回会議のふりかえり』、
『学区のまちづくりの課題と方向』
- ④結果の発表・共有：テーブル毎で話し合った内容を発表して共有



▲結果を発表してみんなで共有

テーブル毎に河西学区の『まちづくりの課題と方向』について話し合いました

- 5つのテーブルに分かれ、前回会議で出された河西学区の『良いところ』や『たからもの』の確認を行い、さらに、それらの特徴をもとに、『学区のまちづくりの課題』を話し合いました。
- 『たからもの』としては、「秋の集い、住民の集い」「キジ、アライグマ、たぬき、ハリヨ、花畑、菜の花、あじさい、コスモス」「旧堤防、湧水」などの追加がありました。また、『たからもの地図』については、神事は農業の豊穰等を願うものが多いことから、「寺社仏閣」と「地域の特色ある農業」の関係性を追加をしました。
- 『まちづくりの課題』については、「人口増減の地域差・少子高齢化により、地域間でバランスが崩れている」があげられ、それに伴う「地域活動や行事の担い手・人材が不足」「新旧住民・世代間の交流が希薄化」という内容が多く上げられました。また、「妙蓮や遺跡等の『たからもの』の活用・保全が不十分」といった意見も出されました。
- 『今後のまちづくりの方向性』としては、「近江妙蓮を活用したはす祭りイベントの実施」「遺跡のまちとして遺跡をPR」「担い手不足解消のために、行事や自治会活動の負担を減らす」など、今後のまちづくりのヒントになるような意見が出されました。



■滋賀県立大学 濱崎先生のコメント

高齢化がここまで課題として上がってくると思わなかった。湖北の限界集落のように空や家率が5割を越えると、高齢化どころの話ではなく、地域で空き民家をどう活かすかという取り組みを検討し始めている。河西学区でも高齢化が大きな課題ということであるが、みなさん前向きに今後自分たちで何ができるかを検討されている。今後の活性化の議論にどのように結びついていくのか楽しみにしている。

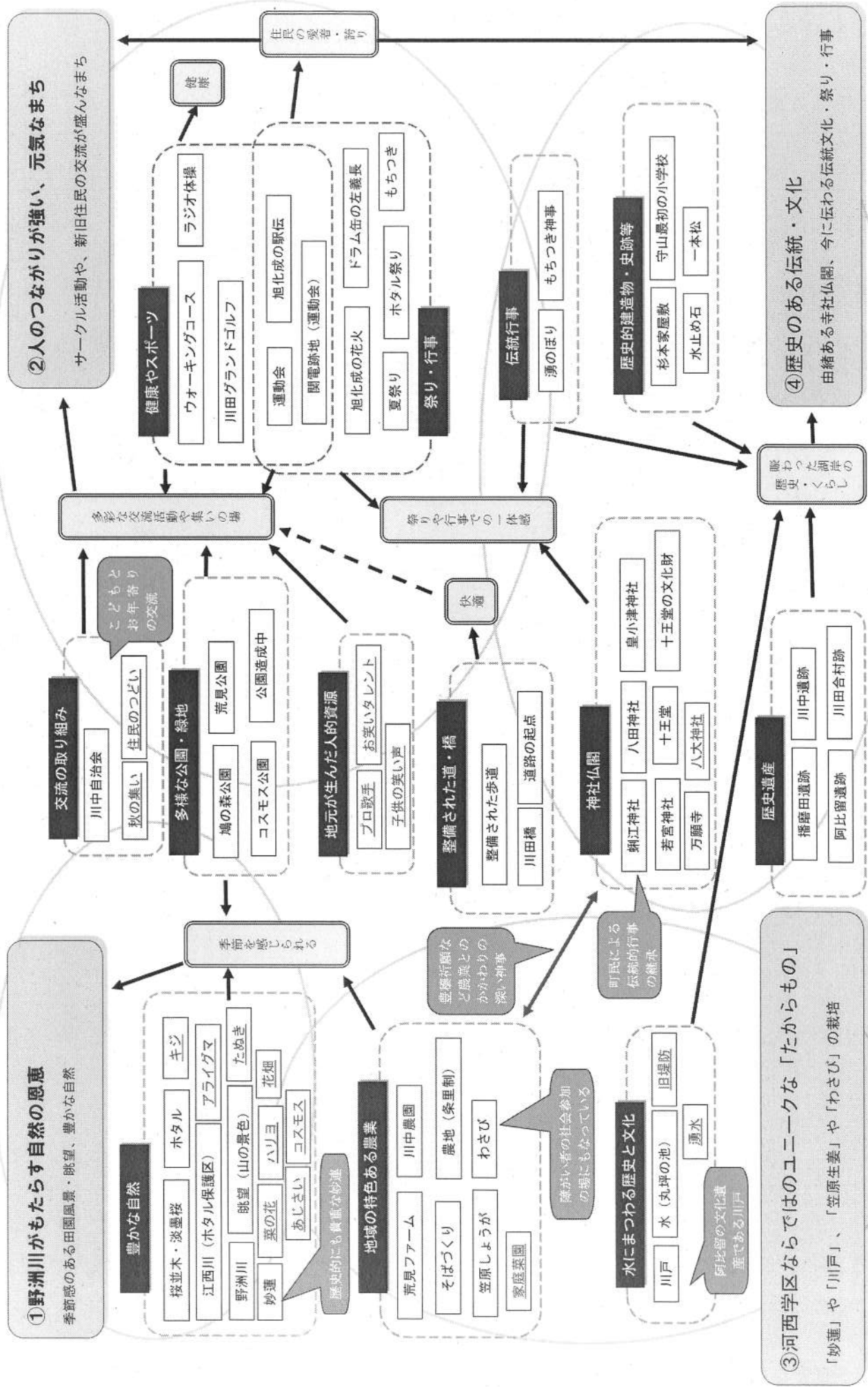
■お問い合わせ

守山市政策調整部みらい政策課

〒524-8585 守山市吉身二丁目5番22号

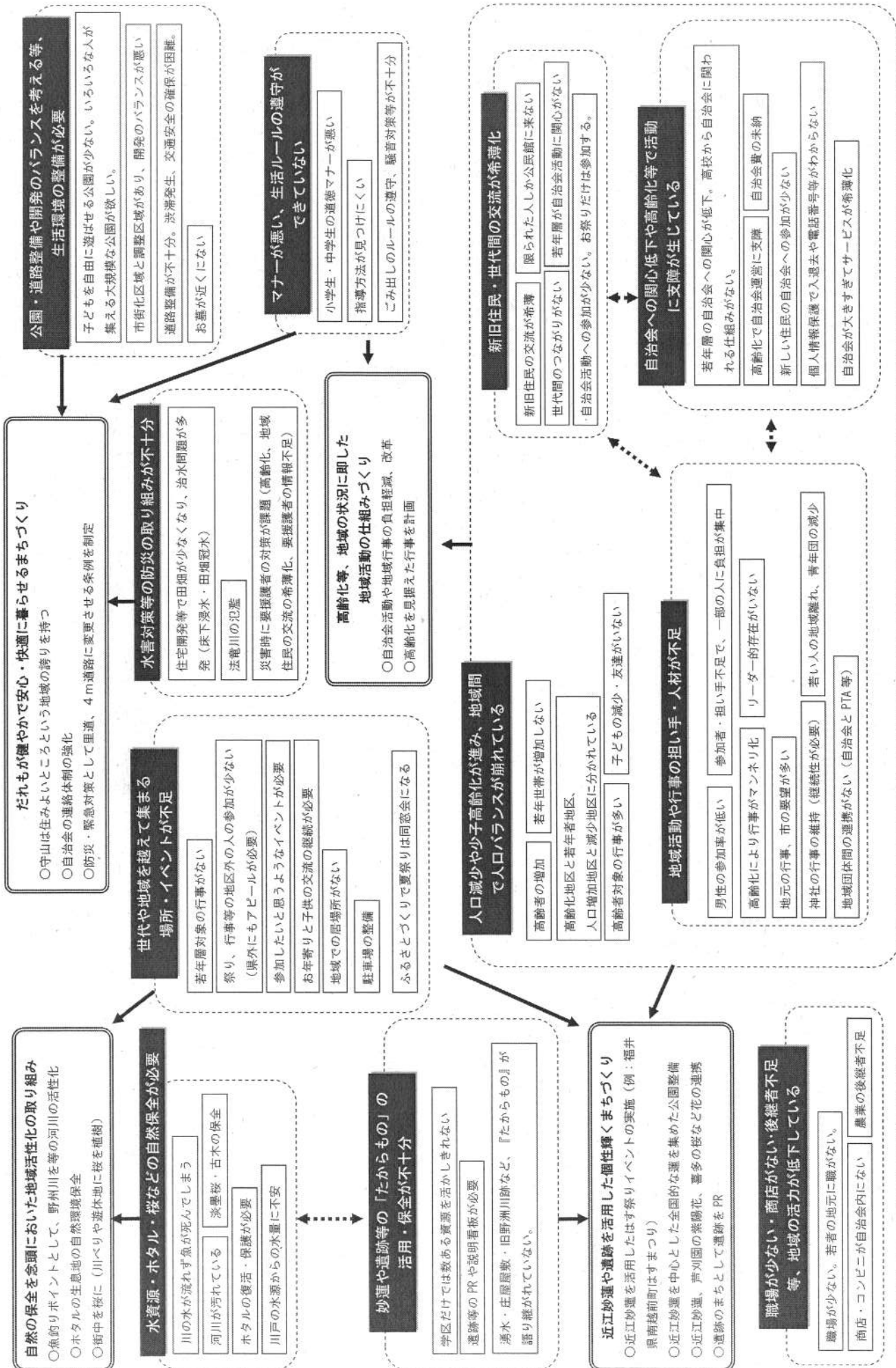
TEL: 077-582-1162 e-mail: miraiseisaku@city.moriyama.lg.jp

河西学区のたからもの



(注) 第2回のワークショップ会議で記入されたもののみ記載。赤字は第3回会議での追加・修正意見

河西学区の課題・活性化の方向性



（注）第3回のワーキングセッションで記入されたもののみ記載。

守山まるごと活性化プラン検討委員会 学区別会議 ニュースレター

第 2 回 学区別会議 [速野学区]

平成 25 年 7 月 22 日（月）午後 7 時 30 分から速野会館において、守山まるごと活性化プラン検討委員会の第 2 回学区別会議を開催しました。

最初に「守山まるごと活性化プラン」の目指すもの、検討の進め方などについて事務局から説明がありました。その後、速野学区にお住まいの方 32 名が自治会を単位とする 5 つのグループに分かれて「地域の特徴、良いところ」、「地域のたからもの」について話し合いが行われ、最後に参加者同士で共有しました。

学区別会議の様子

■当日のプログラム

- ①挨拶：山岡学区長より
- ②内容説明：プランの内容と検討方法、会議当日のプログラム内容
- ③テーブルに分かれて意見交換：『地域の特徴、良いところ』、
『地域のたからもの』さがし
- ④結果の発表・共有：テーブル毎で話し合った内容を発表して共有



▲テーブル毎に話し合いました



■山岡学区長の挨拶（抜粋）

今回の守山まるごと活性化プランは、10～20 年さらに 50 年先といった将来、子供達が本当に住んでよかったと感じられる守山市を創っていこうという趣旨だと理解している。皆さんの英知を出し合い、速野から他の学区に負けないような素晴らしい意見を出していただきたい。

テーブル毎に速野学区の『特徴、良いところ』、『たからもの』について話し合いました

- 5 つのテーブルに分かれ、それぞれの『地域の特徴、良いところ』、そして『たからもの（今まで大事にしてきたものや文化、自慢できるものなど）』を話し合いました。
- 速野学区には、古くからの地域と新興住宅地が存在し、人口が増えつつある新興住宅地に対し古くからの地域では人口の減少や少子高齢化が進みつつあります。そんな中、『地域の特徴や良いところ』として、「人と人のつながりの強さ」が、新旧どの自治会からもあげられました。また、祭事やイベント、日常的な子育てなどを媒介として、新旧住民の間の交流も強まりつつあります。
- 地形的には、学区内を南東から北西に横切る旧野洲川河川敷をはじめ、法竜川、新川、大川、樋の口川などの河川があり、昔から住民と水とのつながりが強い地域であるといえます。『たからもの』でも、生活を支えた旧野洲川の伏流水や湧水、農作業や水運を支えた法竜川沿いの遺構、河川敷の自然など、「水」にまつわるものが多くあげられました。
- また、古くからの地域では旧街道沿いの遺構や寺社、祭事など歴史にまつわるものが多くあげられる一方、湖岸に近い新興住宅地では、対岸の比良の景観、湖岸の自然、湖岸に立地する近代的な施設があげられるなどバラエティに富んでおり、広大な範囲に特徴の異なる地域が混在する速野学区の「多様性」を反映した結果となりました。

■お問い合わせ

守山市政策調整部みらい政策課

〒524-8585 守山市吉身二丁目 5 番 22 号

Tel: 077-582-1162 e-mail: miraiseisaku@city.moriyama.lg.jp

守山まるごと活性化プラン検討委員会 学区別会議 ニュースレター

第 3 回 学区別会議 [速野学区]

平成 25 年 8 月 31 日（土）午前 9 時 30 分から速野会館において、守山まるごと活性化プラン検討委員会の第 3 回学区別会議を開催しました。

速野学区にお住まいの住民 25 名にお集まりいただき、まず、前回会議で出された意見について、大きな見落としがないかなどふりかえりをしました。次に、学区のまちづくりを進めていく上の課題や方向性について話し合い、最後に参加者同士で共有しました。

学区別会議の様子

■当日のプログラム

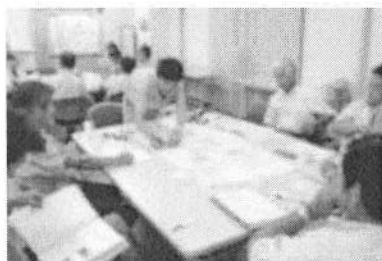
- ①挨拶：山岡学区長より
- ②内容説明：会議当日のプログラム内容、第 2 回検討結果の説明
- ③テーブルに分かれて意見交換：『前回のふりかえり』、
『学区のまちづくりの課題と方向性』
- ④結果の発表・共有：テーブル毎で話し合った内容を発表して共有



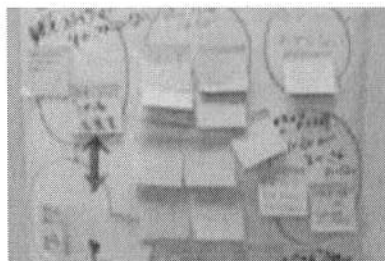
▲ 4 テーブルに分かれて話し合いました

テーブル毎に速野学区の『まちづくりの課題と方向性』について話し合いました

- 3つのテーブルに分かれ、前回会議で出された速野学区の『良いところ』や『たからもの』の確認を行い、さらに、それらの特徴をもとに、『学区のまちづくりの課題』を話し合いました。
- 『たからもの』としては、地区内の神社仏閣や人が集う仕組みなどの項目で追加がありました。また、新たな項目として、速野学区の人口増加の大きな要因である「琵琶湖大橋」がありました。
- 『まちづくりの課題』については、「学区全体での人口増加の一方、新旧自治会間での人口構成の格差」が各テーブルとも共通してあげられ、それに起因する課題として「学区・自治会運営上の問題」「安心・安全面の不安」「自然や水辺の環境が活かされていない」などがあげられました。
- 『今後のまちづくりの方向性』としては、「世代間交流を促す」「新旧の特徴を活かす」「まちづくりに向けたしくみづくり」「自然環境を活かしたまちづくり」「安心・安全に暮らせるまちづくり」などがあげられ、中には具体的な提案も交えた意見も出されました。



▲ 出された意見は進行役が記録

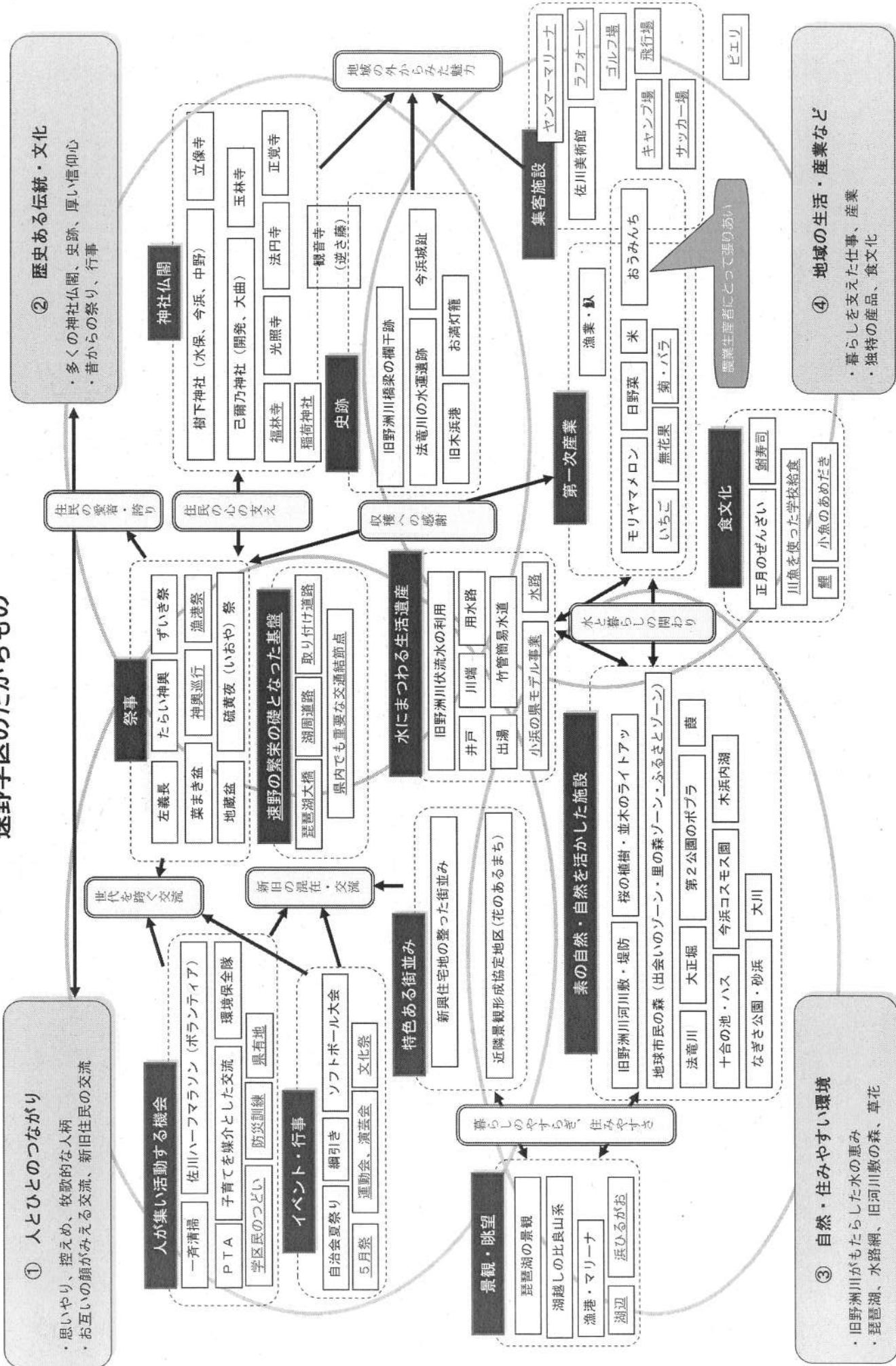


▲ 類似の意見をグルーピング



▲ 成果を発表し参加者で共有

速野学区のたからもの



(注) 第2回のワーキングセッション会議で記入されたもののみ記載。表紙は第3回会議での追加・修正履歴

速野学区の課題・活性化の方向性

学区・自治会運営上の諸問題

～規模の大きさ、新旧混在などに起因～

- 自治会と学区の活動で自治会長が多忙
- 学区の役員にとって役割が負担になっている
- 自治会によって役員の選出方法が異なる
- 年齢毎の順送りが無い
- 先駆者的リーダーの継承が必要
- 役員に若い人や女性の参画が必要
- 過剰な個人情報保護によるコミュニケーションの低下
- 学区のまちづくり組織に生涯学習の切り口が少なく、組織の見直しが必要
- 市の思いと学区組織と自治会組織が繋がることが大切

自然・景観・水環境の保全・整備

～恵まれているのに活かせていない～

- 旧野洲川河川敷・地球市民の森が雑草だらけ
- 公園に子どもを連れて行くという気にならない
- 公園の使い勝手が悪い
- 不法投棄の増加
- 琵琶湖、木浜内湖、大川、大正堀などの水辺の環境を活かしてきてない
- 大川の水循環がよくない
- 里中河川の水源確保と流水化
- 環境センターの排水に配慮し上流からの水流を復活できないか
- 采ひるがお群生地の開花増進を
- 湖南唯一の水泳場であるなぎさ公園の砂浜保全が必要

増えている人口

～新旧の自治会で格差が拡大～

- 市街化区域の新旧自治会は人口が増加、子どもも増加
- ゴミの出し方の意識がなっていない
- 小学校が大規模化
- 屋間の人口は高齢者が中心で防犯上不安
- 新興住宅地の将来の高齢化が不安
- 個人情報保護の壁があり転入者の顔がみえない
- 市街化調整区域の旧自治会は少子高齢化
- 農業の後継者不足
- 神輿の担ぎ手がいない
- 旧自治会での祭事等の継承が困難
- 伝統的な事柄を継承する場がない
- 世代間交流が不足
- 共同体としての意識が低い
- 婦人会・老人会・子ども会の活動が停滞気味

世代間の交流を促し、速野ならではの多様性という特徴を活かしたまちづくり

- 世代間交流の場や機会をつくり、また子育て世代を支援する環境を整備する
- 旧集落の史跡や歴史的資源と、湖岸地域の近代的施設の、双方の魅力を活かしたまちづくり（回遊ルートの整備など）
- 老若男女あらゆる世代で構成する、まちづくりの活性化に取り組み実行部隊をつくる

子どもからお年寄りまで安心・安全に暮らせるまちづくり

- ご近所同士が普段から交流し、声を掛け合い、共助によって安心・安全を守る環境づくり
- 公共交通を便利にし、車に頼らなくてもお出かけできる環境づくり
- 民間施設も活用した災害時にも安心できる避難環境の整備

琵琶湖などの水辺の環境を活かした癒しと潤いのあるまちづくり

- 漁業や琵琶湖の生態系、旧野洲川の環境を学べる機会や場をつくる
- 地球市民の森を、学区民の集いや子ども達の日常の遊び場として整備する
- 地元元の恵まれた自然環境を、住民の協働によって未永く保全するしくみをつくる

地域の伝統産業を大切にすまちづくり

- 「おうみんち」の琵琶湖旅のような施設を琵琶湖大橋付近に整備し、来訪者との交流および、地域の農漁業や観光の情報発信の場とする
- 農漁業をPRし、後継者を発掘、育成する機会や場をつくる

防災・防犯・安全の確保

～未永く安心して暮らしたい～

- 学区レベルの防災訓練必要
- 避難場所が必要
- 駅からのアクセスがよくない
- バスの便が少なく、高齢者の通院に困る
- 車がないと生活できない
- 生活道路を抜け道として利用する車が増加
- 交通渋滞
- 人口の増加に道路整備が追いつかず、狭隘な道路が多い
- 自治会によっては小中学校への距離が長く安全上問題

都市構造・公共施設

～13,000人の学区に相応しい施設を～

- 速野会館が狭い、駐車場も少ない
- 文化・教育施設が貧弱
- 速野会館内に図書室がほしい
- 琵琶湖大橋があるが、通過する地になっている
- 人の足を止める場、集める場がない
- 観光施設はあるが活かされていない
- 町域が広すぎ、住居表示がわかりづらく、速野学区のどこにいてもわからない
- 北川水利組合の給水開路が都市化を妨げている

地域への愛着

～愛郷心、誇りを醸成するものが少ない～

- 自治会レベルはあるが学区全体での祭事が少ない
- 守山市民としての郷土愛を抱かせないものがない
- 守山市の知名度低い
- 小学生へ地域の歴史教育を

(注) 第3回のワークショップ会議で記入されたもののみ記載。

守山まるごと活性化プラン検討委員会 学区別会議 ニュースレター

第 2 回
学区別会議
[中洲学区]

平成 25 年 7 月 15 日 (月) 午後 8 時から中洲会館において、守山まるごと活性化プラン検討委員会の第 2 回学区別会議を開催しました。

最初に「守山まるごと活性化プラン」の目指すもの、検討の進め方などについて事務局から説明がありました。その後、中洲学区にお住まいの住民 19 名、滋賀県立大学の濱崎先生や学生さんも一緒になって、「地域の特徴、良いところ」、「地域のたからもの」について話し合いが行われ、最後に参加者同士で共有しました。

学区別会議の様子

■当日のプログラム

- ①挨拶：本城学区長より
- ②内容説明：プランの内容と検討方法、会議当日のプログラム内容
- ③テーブルに分かれて意見交換：『地域の特徴、良いところ』、
『地域のたからもの』さがし
- ④結果の発表・共有：テーブル毎で話し合った内容を発表して共有



▲テーブル毎に話し合いました

■本城学区長の挨拶 (抜粋)

中洲学区のまちづくりにおいて以下の 2 つは外せない。①野洲川の伏流水が無くなっていること。水のないまちづくりはない。②野洲川河川敷の環境。上流では河川敷が公園化されたり綺麗になっている。中洲学区の河川敷では、我々の先祖の田畑を提供して放水路としたのに荒れ放題となっている。この 2 点を重視していきたい。



テーブル毎に中洲学区の『特徴、良いところ』、『たからもの』について話し合いました

- 5 つのテーブルに分かれ、それぞれの『地域の特徴、良いところ』、そして『たからもの (今まで大事にしてきたものや文化、自慢できるものなど)』を話し合いました。
- 『地域の特徴や良いところ』で出てきた意見には、中洲学区に共通して、「地域へのつながりが強い」、「人柄と人間性が良い」、「お年寄りがとても元気」がありました。また、守山市の中でも少子高齢化が大きな問題になっている地域ですが、一方で 80 代でも現役で農作業などをする学区という意見もいただきました。
- 『たからもの』では、各地で野洲川の伏流水や湧水といった『水』にまつわる慣習や文化に関するものが多く出てきました。幸津川では昔、水路で汲んだ水と水路や琵琶湖で獲った魚で作るみそ汁 (みそ茶) が農作業の合間に飲まれていたそうです。



■滋賀県立大学 濱崎先生のコメント

彦根の山村で茅葺きの葺き替えをやっているが、その地域ではまったく人手が無く学生等の手が必要。比べると中洲学区はこれだけ多くの人が集まってまちづくりの議論をしているのは素晴らしい。

これからも学生と会議に参加するので、よろしくお願いします。

■お問い合わせ

守山市政策調整部みらい政策課

〒524-8585 守山市吉身二丁目 5 番 22 号

Tel : 077-582-1162 e-mail : miraiseisaku@city.moriyama.lg.jp

守山まるごと活性化プラン検討委員会 学区別会議 ニュースレター

第 3 回
学区別会議
[中洲学区]

平成 25 年 8 月 21 日（水）午後 8 時から中洲会館において、守山まるごと活性化プラン検討委員会の第 3 回学区別会議を開催しました。

中洲学区にお住まいの住民 15 名に、滋賀県立大学の濱崎先生や学生さんも加わり、まず、前回会議で出された意見について、大きな見落としがないかなどふりかえりをしました。次に、学区のまちづくりを進めていく上での課題や方向性について話し合い、最後に参加者同士で共有しました。

学区別会議の様子

■当日のプログラム

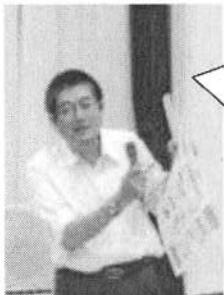
- ①挨拶：本城学区長より
- ②内容説明：会議当日のプログラム内容、第 2 回検討結果の説明
- ③テーブルに分かれて意見交換：『前回会議のふりかえり』、
『学区のまちづくりの課題と方向』
- ④結果の発表・共有：テーブル毎で話し合った内容を発表して共有



▲結果を発表してみんなで共有

テーブル毎に中洲学区の『まちづくりの課題と方向』について話し合いました

- 3つのテーブルに分かれ、前回会議で出された中洲学区の『良いところ』や『たからもの』の確認を行い、さらに、それらの特徴をもとに、『学区のまちづくりの課題』を話し合いました。
- 『たからもの』としては、地域でお金を出し合って助け合う仕組み「講」が抜けているという意見がありました。伊勢講、愛宕講、頼母子講（融通講）、行者講など、目的に応じてさまざまな「講」を活用してきた中洲の歴史・文化が感じられました。また、中洲地区の世帯数分のイルミネーションを飾る「ふれあいの灯」は外せないという意見がありました。
- 『まちづくりの課題』については、「野洲川や伏流水に親しめなくなっている状況」と「少子高齢化と人口減少」、「地域へのつながりの希薄化」の3つが各テーブルから共通して上げられました。
- 『今後のまちづくりの方向性』としては、「野洲川で水や自然に親しむことのできる仕組み、河川敷の公園化、きれいな水が里中を流れホタルが飛びまち」、「人口減少を食い止めるため、地区計画の検討・策定を進める」、自治会単位ではなく「学区全体で協力できることを考える」など、今後のまちづくりのヒントになるような意見が多く出されました。



■滋賀県立大学 濱崎先生のコメント

人のつながりの強さや人柄の良さといったものが、少子高齢化によって薄れつつあるなど、たからものが「たからであったもの」になりかけているという意見が出ていた。課題の中に、水路に水が流れなくなったという意見があったが、滋賀県では川から埋渠で綺麗な水を引いている所がいくつかあり、昔は幸津川でも行われていたとのことであった。発想を変えて自由に考えると、何か次に繋がることも出てくるのではないかと思う。

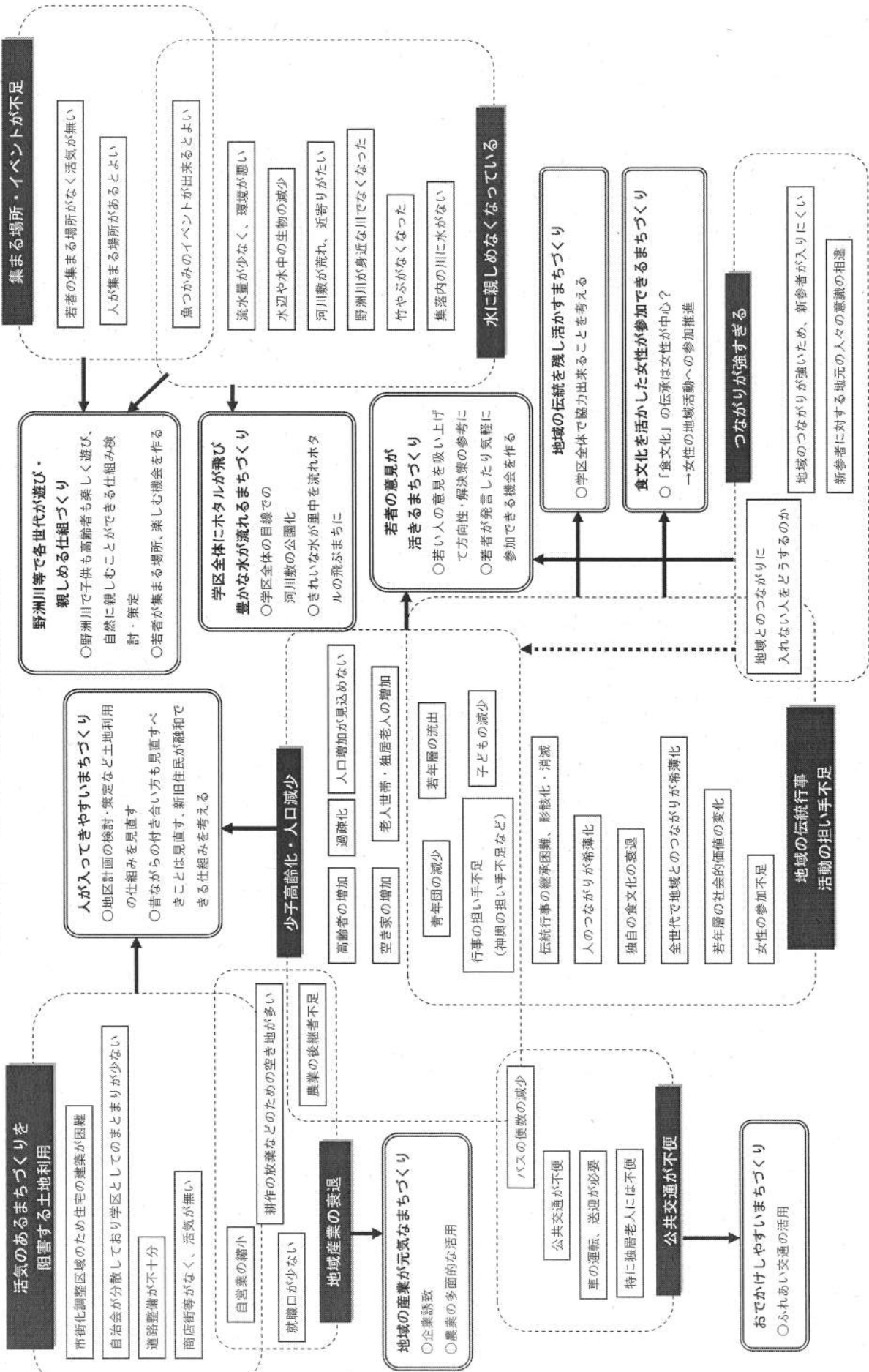
■お問い合わせ

守山市政策調整部みらい政策課

〒524-8585 守山市吉身二丁目5番22号

TEL: 077-582-1162 e-mail: miraiseisaku@city.moriyama.lg.jp

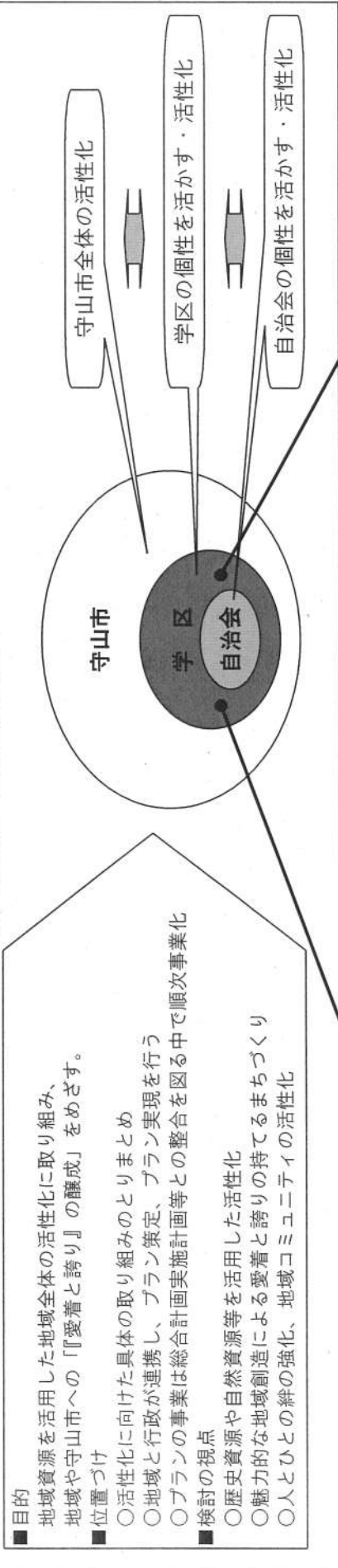
中洲学区の課題・活性化の方向性



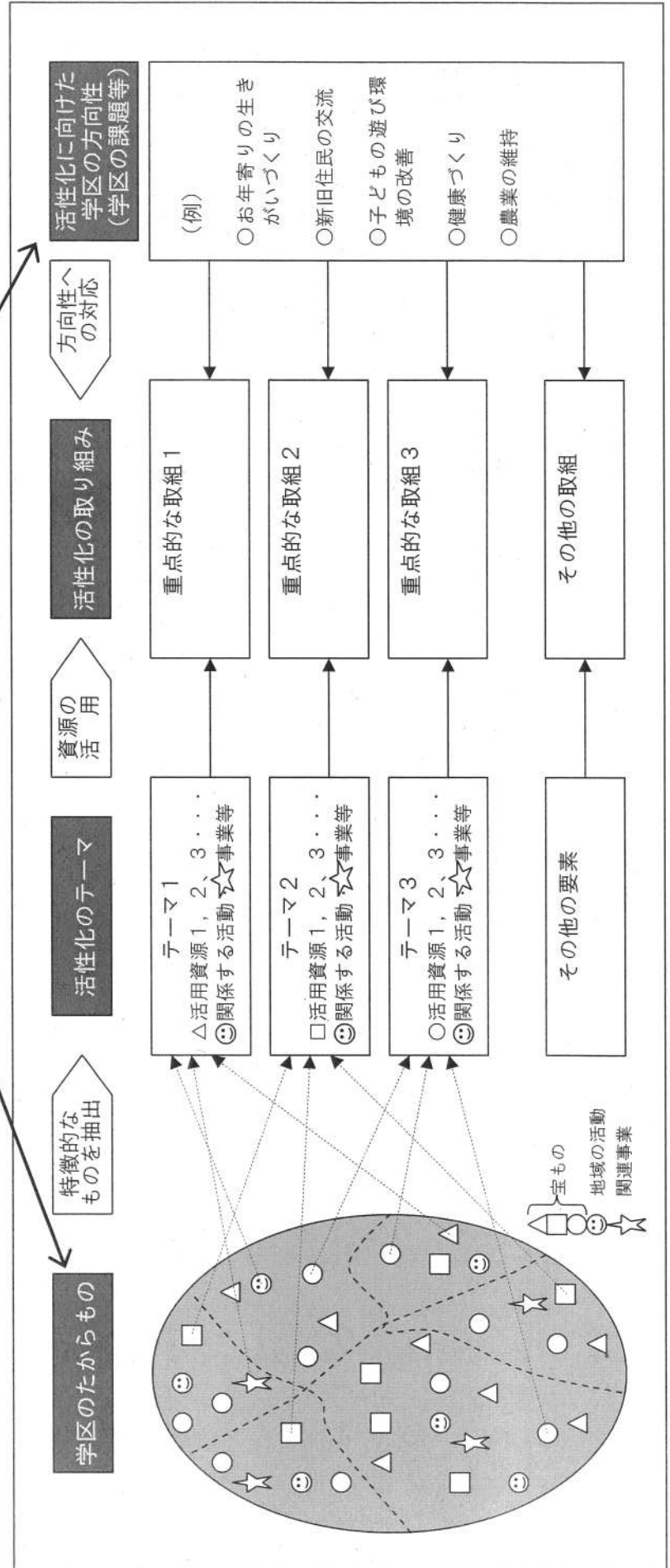
(注) 第3回のワーキングセッション会議で記入されたもののみ記載。

「守山まるごと活性化プラン」 検討の考え方

守山まるごと活性化計画



- 目的
 - 地域資源を活用した地域全体の活性化に取り組み、地域や守山市への「愛着と誇り」の醸成をめざす。
- 位置づけ
 - 活性化に向けた具体的な取り組みのとりまとめ
 - 地域と行政が連携し、プラン策定、プラン実現を行う
 - プランの事業は総合計画実施計画等との整合を図る中で順次事業化
- 検討の視点
 - 歴史資源や自然資源等を活用した活性化
 - 魅力的な地域創造による愛着と誇りの持てるまちづくり
 - 人とひとの絆の強化、地域コミュニティの活性化



- 活性化に向けた学区の方向性 (学区の課題等)
- (例)
- お年寄りの生きがいがづくり
 - 新旧住民の交流
 - 子どもの遊び環境の改善
 - 健康づくり
 - 農業の維持



「守山まるごと活性化プラン」完成イメージ

学区別プラン内容イメージ (ボリュームは各学区8頁程度を想定)

